



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Noriaki OJIMA, et al.

GAU:

SERIAL NO: 10/764,449

EXAMINER:

FILED: January 27, 2004

FOR: IMAGING APPARATUS, IMAGING METHOD AND RECORDING MEDIUM

REQUEST FOR PRIORITY

COMMISSIONER FOR PATENTS  
ALEXANDRIA, VIRGINIA 22313

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number , filed , is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date(s) of U.S. Provisional Application(s) is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e): Application No. Date Filed
- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

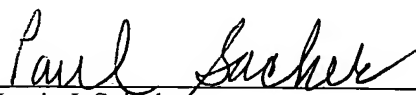
<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
JAPAN	2003-031678	February 7, 2003
JAPAN	2003-427668	December 24, 2003

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. filed
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number  
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. filed ; and
- ☐ (B) Application Serial No.(s)
- ☐ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,  
MAIER & NEUSTADT, P.C.

  
Marvin J. Spivak

Registration No. 24,913

Customer Number

22850

Tel. (703) 413-3000  
Fax. (703) 413-2220  
(OSMMN 05/03)

Paul Sacher  
Registration No. 43,418

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 2月 7日  
Date of Application:

出願番号 特願2003-031678  
Application Number:  
[ST. 10/C]: [JP2003-031678]

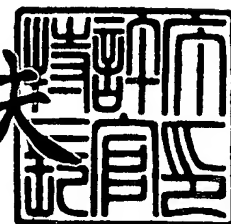
出願人 株式会社リコー  
Applicant(s):

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2004年 1月26日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 0209075

【提出日】 平成15年 2月 7日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/238  
G03B 7/093  
G03B 9/08  
H04N 5/225

【発明の名称】 撮像装置、撮像方法および記録媒体

【請求項の数】 5

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号  
株式会社 リコー内

【氏名】 尾島 憲昭

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号  
株式会社 リコー内

【氏名】 北島 達敏

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号  
株式会社 リコー内

【氏名】 杉浦 康一

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号  
株式会社 リコー内

【氏名】 中平 寿昭

## 【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号  
株式会社 リコー内

【氏名】 吉田 彰宏

## 【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社 リコー

【代表者】 桜井 正光

## 【代理人】

【識別番号】 100085660

【氏名又は名称】 鈴木 均

【電話番号】 03-3380-7533

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 060613

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0201246

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 撮像装置、撮像方法および記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 撮像素子にチャージされた電荷を放電して、該放電期間の露光をキャンセルする電荷放電手段と、メカシャッタにより光を遮光するメカシャッタ遮光手段とを備えて露光量を制御する撮像装置において、

被写体を記録するシャッタ速度が所定のシャッタ秒時以上の場合、前記電荷放電手段による前記撮像素子の電荷放電期間と、前記メカシャッタ遮光手段による前記メカシャッタの遮光タイミングを所定の時間早めることを特徴とする撮像装置。

【請求項 2】 前記所定のシャッタ秒時とは、1 フレームの画像記録期間を表す垂直同期信号期間の略半分の時間に相当することを特徴とする請求項 1 に記載の撮像装置。

【請求項 3】 前記所定の時間とは、前記所定のシャッタ秒時より算出される電荷放電期間に相当することを特徴とする請求項 1 に記載の撮像装置。

【請求項 4】 撮像素子にチャージされた電荷を放電して、該放電期間の露光をキャンセルする電荷放電ステップと、メカシャッタにより光を遮光するメカシャッタ遮光ステップとを備えて露光量を制御する撮像方法において、

被写体を記録するシャッタ速度が 1 フレームの画像記録期間を表す垂直同期信号期間の略半分の時間未満に相当する時間の場合、前記電荷放電ステップによる前記撮像素子の電荷放電期間と、前記メカシャッタ遮光ステップによる前記メカシャッタの遮光タイミングを前記垂直同期信号期間の略半分の時間より算出される電荷放電期間だけ早めることを特徴とする撮像方法。

【請求項 5】 請求項 4 の撮像方法をコンピュータが制御可能な方式によりプログラミングしたプログラムを前記コンピュータが読取り可能な形式により記録したことを特徴とする記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、レリーズシャッターを押してから、実際の露光が開始されるまでの時間（以下、レリーズタイムラグと記す）を短縮した撮像装置、撮像方法および記録媒体に関するものである。

## 【0002】

### 【従来の技術】

レリーズタイムラグを短縮する技術に関しては、特開 2 0 0 2 - 2 9 0 8 2 3 公報に、露光モードへの移行から少ないタイムラグまたはタイムラグなしで露光を開始する撮像装置および露光方法について開示されている。それによると、シャッターレリーズボタンが半押しされると、露光算出制御機能部は測光を行い、露光時間を決定する。続いてシャッターレリーズボタンが全押しされると、タイミング信号生成部がムービーモードから露光モードへ切り替わる。これによりドライバ部は 1 回以上の固定された回数の電子シャッター出力パルスを送像部に与え、固定された時点からの露光を開始する。そしてシステム制御部は、測光により得られた露光時間の終了と同時にメカシャッターが閉じるよう、AE 調整部を制御している。

【特許文献 1】 特開 2 0 0 2 - 2 9 0 8 2 3 公報

## 【0003】

### 【発明が解決しようとする課題】

前記特許文献 1 は、撮像素子による電荷抜き取り期間（以下、電子シャッターと記す）を短期間で、且つ一定とし、メカシャッターにより露光量を制御することで、レリーズタイムラグを短縮する技術である。しかしながら、この方法では、シャッター秒時が高速になった場合の露光精度は、メカシャッターの閉じ精度に依存することになる。又、メカシャッターのシャッター秒時の上限は、コストを掛けたフォーカルプレーンシャッターでも、1 / 8 0 0 0 秒程度であり、コンパクトカメラに使用される低コストなレンズシャッターの場合、1 / 5 0 0 秒程度が上限である。従って、特許文献 1 による発明では、シャッター秒時の高速側の制御の上限が低下してしまうといった問題がある。

本発明は、かかる課題に鑑み、シャッター秒時の高速側の制御の上限を高くして、且つ低コストでレリーズタイムラグを短縮した撮像装置を提供することを目的

とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】

本発明はかかる課題を解決するために、請求項1は、撮像素子にチャージされた電荷を放電して、該放電期間の露光をキャンセルする電荷放電手段と、メカシャッターにより光を遮光するメカシャッター遮光手段とを備えて露光量を制御する撮像装置において、被写体を記録するシャッター速度が所定のシャッター秒時以上の場合、前記電荷放電手段による前記撮像素子の電荷放電期間と、前記メカシャッター遮光手段による前記メカシャッターの遮光タイミングを所定の時間早めることを特徴とする。

シャッター速度が速くなると画像を記録する露光時間は短くなる。そこで露光時間が1フレームの記録期間を表す垂直同期信号の約半分の時間未満であれば、電子シャッター時間やメカシャッタータイミングをシフトして早めることが可能となる。そこで本発明では、被写体を記録するシャッター速度が所定のシャッター速度以上の場合、電子シャッター時間をシフトしてそこからメカシャッターのタイミングをスタートすることにより、全体としてリリースタイムラグを短縮するものである。

かかる発明によれば、被写体を記録するシャッター速度が所定のシャッター秒時以上の場合、電子シャッター時間をシフトしてそこからメカシャッターのタイミングをスタートするので、リリースタイムラグを短縮すると共に、メカシャッターの性能によりシャッター秒時の高速側の上限が規制されることを防止することができる。

請求項2は、前記所定のシャッター秒時とは、1フレームの画像記録期間を表す垂直同期信号期間の略半分の時間に相当することを特徴とする。

シャッター秒時が遅くて垂直同期信号期間の半分以上露光時間が必要な場合は、シフト可能なシャッター秒時より算出した時間が不足して電子シャッター期間がとれなくなってしまう。従って、所定のシャッター秒時は垂直同期信号期間の略半分の時間に相当する時間となる。

かかる発明によれば、シャッター秒時の上限を垂直同期信号期間の略半分の時間に相当する時間とするので、電子シャッター時間を短縮してメカシャッターが動作開始する時間を早めることができる。

## 【0005】

請求項3は、前記所定の時間とは、前記所定のシャッタ秒時より算出される電荷放電期間に相当することを特徴とする。

シャッタ秒時から所定の露光時間が算出され、その露光時間は常に一定である。従って、垂直同期信号期間の半分の時間から露光時間を減算すると電荷放電期間が算出され、そこからメカシャッタのタイマをスタートさせてメカシャッタを閉じることにより、時間を短縮することができる。

かかる発明によれば、算出された電荷放電期間からメカシャッタのタイマをスタートさせてメカシャッタを閉じるので、レリーズタイムラグを短縮することができる。

請求項4は、撮像素子にチャージされた電荷を放電して、該放電期間の露光をキャンセルする電荷放電ステップと、メカシャッタにより光を遮光するメカシャッタ遮光ステップとを備えて露光量を制御する撮像方法において、被写体を記録するシャッタ速度が1フレームの画像記録期間を表す垂直同期信号期間の略半分の時間未満に相当する時間の場合、前記電荷放電ステップによる前記撮像素子の電荷放電期間と、前記メカシャッタ遮光ステップによる前記メカシャッタの遮光タイミングを前記垂直同期信号期間の略半分の時間より算出される電荷放電期間だけ早めることを特徴とする。

かかる発明によれば、請求項1と同様の作用効果を奏する。

請求項5は、請求項4の撮像方法をコンピュータが制御可能な方式によりプログラミングしたプログラムを前記コンピュータが読取り可能な形式により記録したことを特徴とする。

本発明の目的はソフトウェアのプログラムコードを記録した記憶媒体を、装置に供給し、その装置のコンピュータ（CPU若しくはMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読出し実行することによっても、達成されることは言うまでもない。

かかる発明によれば、記憶媒体から読出されたプログラムコード自体が実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することができる。



## 【0006】

## 【発明の実施の形態】

以下、本発明を図に示した実施形態を用いて詳細に説明する。但し、この実施形態に記載される構成要素、種類、組み合わせ、形状、その相対配置などは特定の記載がない限り、この発明の範囲をそのみに限定する主旨ではなく単なる説明例に過ぎない。

図1は、本発明の撮像装置の一例であるデジタルカメラの外観図である。図1(a)はカメラ上面図であり、(b)はカメラ正面図であり、(c)はカメラ裏面図である。そしてカメラ上面には、レリーズシャッター(SW1)、モードダイヤル(SW2)、及びサブLCD(1)がある。またカメラ正面には、SDカード・電池蓋(2)、ストロボ発光部(5)、光学ファインダ(4)、測距ユニット(3)、リモコン受光部(6)、及び鏡胴ユニット(7)がある。またカメラ裏面には、AF LED(8)、ストロボLED(9)、セルフタイマ・削除SW(SW5)、ZOOM SW(WIDE)、ZOOM SW(TELE)、MENU SW、上・ストロボSW、右SW、DISPLAY SW、下・マクロSW、左・画像確認SW、OK SW、LCDモニタ(10)、及び電源SW(13)がある。

## 【0007】

図2は、本発明の撮像装置の一例であるデジタルカメラのブロック図である。まず、図1、図2を使用して、本発明の撮像装置の一例であるデジタルカメラの動作を説明する。鏡胴ユニット(7)は、被写体の光学画像を取り込むズームレンズ(7-1a)、ズーム駆動モータ(7-1b)からなるズーム光学系(7-1)、フォーカスレンズ(7-2a)、フォーカス駆動モータ(7-2b)からなるフォーカス光学系(7-2)、絞り(7-3a)、絞りモータ(7-3b)からなる絞りユニット(7-3)、メカシャッター(7-4a)、メカシャッターモータ(7-4b)からなるメカシャッターユニット(7-4)、各モータを駆動するモータドライバ(7-5)から構成されている。そして、モータドライバ(7-5)は、リモコン受光部(6)入力や操作部Keyユニット(SW1～SW13)の操作入力に基づく、後述するデジタルスチルカメラプロセッサ(1

04) 内にあるCPUブロック(104-3)からの駆動指令により駆動制御される。

ROM(108)には、CPUブロック(104-3)にて解読可能なコードで記述された制御プログラムや、制御するためのパラメータが格納されている。そしてデジタルカメラの電源がオン状態になると、前記プログラムは図示しないメインメモリにロードされ、前記CPUブロック(104-3)はそのプログラムに従って装置各部の動作を制御するとともに、制御に必要なデータ等を一時的にRAM(107)、及び後述するデジタルスチルカメラプロセッサ(104)内にあるLocal SRAM(104-4)に保存する。ROM(108)に書き換え可能なフラッシュROMを使用することで、制御プログラムや制御するためのパラメータを変更することが可能となり、機能のバージョンアップが容易に行える。

CCD(101)は、光学画像を光電変換するための固体撮像素子であり、F/E(フロントエンド)-IC(102)は、画像ノイズ除去用相関二重サンプリングを行うCDS(102-1)、利得調整を行うAGC(102-2)、デジタル信号変換を行うA/D(102-3)、CCD1制御ブロック(104-1)より、垂直同期信号(以下、VDと記す。)、水平同期信号(以下、HDと記す)を供給され、CPUブロック(104-3)によって制御されるCCD(101)、及びF/E-IC(102)の駆動タイミング信号を発生するTG(102-4)を有する。

#### 【0008】

デジタルスチルカメラプロセッサ(104)は、CCD(101)よりF/E-IC(102)の出力データにホワイトバランス設定やガンマ設定を行い、又、前述したように、VD信号、HD信号を供給するCCD1制御ブロック(104-1)、フィルタリング処理により、輝度データ・色差データへの変換を行うCCD2制御ブロック(104-2)、前述した装置各部の動作を制御するCPUブロック(104-3)、前述した制御に必要なデータ等を、一時的に保存するLocal SRAM(104-4)、パソコンなどの外部機器とUSB通信を行うUSBブロック(104-5)、パソコンなどの外部機器とシリアル通

信を行うシリアルブロック（104-6）、J P E G 圧縮・伸張を行う J P E G CODEC ブロック（104-7）、画像データのサイズを補間処理により拡大／縮小する R E S I Z E ブロック（104-8）、画像データを液晶モニタや T V などの外部表示機器に表示するためのビデオ信号に変換する T V 信号表示ブロック（104-9）、撮影された画像データを記録するメモ리카ードの制御を行うメモ리카ードブロック（104-10）により構成される。

S D R A M（103）は、前述したデジタルスチルカメラプロセッサ（104）で画像データに各種処理を施す際に、画像データを一時的に保存する。保存される画像データは、例えば、C C D（101）から、F / E - I C（102）を経由して取りこんで、C C D 1 信号処理ブロック（104-1）でホワイトバランス設定、ガンマ設定が行われた状態の「R A W - R G B 画像データ」や C C D 2 制御ブロック（104-2）で輝度データ・色差データ変換が行われた状態の「Y U V 画像データ」、J P E G CODEC ブロック（104-7）で、J P E G 圧縮された「J P E G 画像データ」などである。

メモ리카ードスロットル（121）は、着脱可能なメモ리카ードを装着するためのスロットルである。内蔵メモリ（120）は、前述したメモ리카ードスロットル（121）にメモ리카ードが装着されていない場合でも、撮影した画像データを記憶できるようにするためのメモリである。

#### 【0009】

L C D ドライバ（117）は、後述する L C D モニタ（10）に駆動するドライブ回路であり、T V 信号表示ブロック（104-9）から出力されたビデオ信号を、L C D モニタ（10）に表示するための信号に変換する機能も有している。

L C D モニタ（10）は、撮影前に被写体の状態を監視し、撮影した画像を確認するためにメモ리카ードや前述した内蔵メモリ（120）に記録した画像データを表示するなどを行うためのモニタである。

ビデオ A M P（118）は、T V 信号表示ブロック（104-9）から出力されたビデオ信号を、75Ωインピーダンス変換するためのアンプであり、ビデオジャック（119）は、T V などの外部表示機器と接続するためのジャックであ

る。

USBコネクタ(122)は、パソコンなどの外部機器とUSB接続を行う為のコネクタである。

シリアルドライバ回路(123-1)は、パソコンなどの外部機器とシリアル通信を行うために、前述したシリアルブロック(104-6)の出力信号を電圧変換するための回路であり、RS-232Cコネクタは、パソコンなどの外部機器とシリアル接続を行う為のコネクタである。

SUB-CPU(109)は、ROM・RAMをワンチップに内蔵したCPUであり、操作Keyユニット(SW1~13)やリモコン受光部(6)の出力信号をユーザの操作情報として、前述したCPUブロック(104-3)に出力したり、前述したCPUブロック(104-3)より出力されるカメラの状態を、後述するサブLCD(1)、AF LED(8)、ストロボLED(9)、ブザー(113)の制御信号に変換して、出力する。

#### 【0010】

サブLCD(1)は、例えば、撮影可能枚数など表示するための表示部であり、LCDドライバ(111)は、前述したSUB-CPU(109)の出力信号より、前述したサブLCD(1)を駆動するためのドライブ回路である。

AF LED(8)は、撮影時の合焦状態を表示するためのLEDであり、ストロボLED(9)は、ストロボ充電状態を表すためのLEDである。尚、このAF LED(8)とストロボLED(9)を、メモリカードアクセス中などの別の表示用途に使用しても良い。

操作Keyユニット(SW1~13)は、ユーザーが操作するKey回路であり、リモコン受光部(6)は、ユーザーが操作したリモコン送信機の信号の受信部である。音声記録ユニット(115)は、ユーザーが音声信号を入力するマイク(115-3)、入力された音声信号を増幅するマイクAMP(115-2)、増幅された音声信号を記録する音声記録回路(115-3)からなる。

音声再生ユニット(116)は、記録された音声信号をスピーカーから出力できる信号に変換する音声再生回路(116-1)、変換された音声信号を増幅し、スピーカーを駆動するためのオーディオAMP(116-2)、音声信号を出

力するスピーカー（116-3）からなる。

#### 【0011】

図3は、記録電子シャッター期間演算処理を説明するフローチャートである。まず、シャッターリリース半押し（RL1）されたか判断して（S101）、押されていないならば（S101でNOのルート）、処理を終了する。ステップシS101でシャッターリリース半押し（RL1）されていれば（S101でYESのルート）、次に、シャッター減算有無情報として、シャッター減算無しをセットする（S102）。次に、被写体の明るさから、記録シャッター秒時を演算する（S103）。次に、S103で演算した記録シャッター秒時から、電子シャッター期間を算出する（S104）。次に、S103で算出した記録シャッター秒時が、シフト可能シャッター秒時以上か判断する（S105）。シフト可能シャッター秒時未満の場合は（S105でNOのルート）、処理を終了する。シフト可能シャッター秒時以上の場合は（S105でYESのルート）、電子シャッター期間からシフト可能シャッター秒時より算出した時間だけ減算する（S106）。次に、シャッター減算有無情報として、シャッター減算有りをセットし、処理を終了する（S107）。この処理は、リリースボタン半押し状態で被写体の明るさを測り、被写体が暗い場合は露光時間を長くしなければならず、その分電子シャッターに必要な時間が短くなり、必要時間がとらないときにはシフトを行わないフラグを立てる。また被写体が明るければ露光時間が短くて済むので、電子シャッター時間からシフト可能時間を減算してフラグを減算ありとする処理である。

#### 【0012】

図4は、記録電子シャッター期間設定とメカシャッター閉じタイミング設定を説明するフローチャートである。図4を用いて、記録電子シャッター期間設定とメカシャッター閉じタイミング設定を説明する。なお、この記録電子シャッター期間設定とメカシャッター閉じタイミング設定は、図3を用いて説明した記録電子シャッター期間演算処理の後に行われる。まず、シャッターリリース全押し（RL2）されたか判断する（S201）。押されていないならば（S201でNOのルート）、処理を終了する。シャッターリリース全押し（RL2）されていれば（S201でYESのルート）、垂直同期（VD）信号のタイミングを取得する（S202）。垂

直同期（VD）信号のタイミングを取得した結果、次の垂直同期（VD）信号までの時間が、所定時間だけ空いていれば（S 2 0 3 で YES のルート）、S 2 0 5 に進む。S 2 0 3 で空いていなければ（S 2 0 3 で NO のルート）、次の垂直同期（VD）信号が来るまで待ち（S 2 0 4）、S 2 0 5 に進む。次に記録電子シャッタを設定する（S 2 0 5）。記録電子シャッタの設定は、CPU ブロック（1 0 4 - 3）より F / E - I C（1 0 2）へ、シリアルデータを送信することにより行われる。また、設定した記録電子シャッタは、次の垂直同期（VD）信号で反映される。次にメカシャッタ閉じタイマを設定する（S 2 0 6）。メカシャッタ閉じタイマを設定は、CPU ブロック（1 0 4 - 3）のタイマ割り込みに、メカシャッタを閉じるまでの時間を設定することで行う。メカシャッタを閉じるまでの時間は、プログラムに記述され、ROM（1 0 7）に格納されている。次に、図 3 のフローで設定されたシャッタ減算有無情報を読み出し、シャッタ減算の有無を判断する（S 2 0 7）。シャッタ減算無しであれば（S 2 0 7 で NO のルート）、S 2 0 9 へ進む。シャッタ減算有りであれば（S 2 0 7 で YES のルート）、S 2 0 6 で設定したメカシャッタ閉じタイマから、メカシャッタシフト時間を減算し（S 2 0 8）、減算結果を、メカシャッタ閉じタイマへ設定しなおす。メカシャッタシフト時間は、プログラムに記述され、ROM（1 0 7）に格納されている。次に、設定した電子シャッタが反映されるのを待つために、垂直同期（VD）信号が来るのを待つ（S 2 0 9）。次に、垂直同期（VD）信号が来たら、CPU ブロック（1 0 4 - 3）のタイマ割り込みを開始し（S 2 1 0）、処理を終了する。メカシャッタは、S 2 0 6、または S 2 0 8 で設定された時間後に、閉じ動作を行う。

ここでは、シャッタリリースが、半押し、全押しと分けて押された場合について説明したが、シャッタリリースが、半押しを経由せず、一気に全押しされた場合は、図 3、図 4 を用いて説明した処理を連続して行う。

### 【0 0 1 3】

図 5 は、図 4 のフローチャート時間軸に説明したタイミングチャートである。上から VD 垂直同期信号、メカシャッタ（図ではハイレベルでメカシャッタが開の期間を表す）、電子シャッタ（パルスが出力されている時に電子シャッタが動作

している)、処理イベント(図4のフローチャート)をそれぞれ表す。このタイミングチャートでは、モニタリングと静止画記録のモードに別れ、メカシャッタが押されてからメカシャッタが閉じるまでの動作である。まず、モニタリングの期間に、Aの処理イベントによりリリース2(RL2)が押され、モニタリングの電子シャッタが連続的に働いてCCDの電荷をディスチャージする。そして電子シャッタをOFFしてモニタリングの露光が行われる。それと並行してS205により記録電子シャッタ設定が行われ、続いてS206～S208においてメカシャッタ閉じタイマ演算処理が行われ、シャッタ減算していれば所定時間減算する。そして次のVDに同期してS210によりメカシャッタ閉じタイマをスタートして静止画が露光される。

#### 【0014】

図6は、本発明のリリースタイムラグ短縮を説明したタイミングチャートである。比較のために図6(a)には従来のシャッタタイミングシフト無しのタイミングチャートを示す。図6(a)ではVD期間中被写体の明るさにより決定された露光時間aになるように電子シャッタが働きCCDの電荷を放電している。従って、その分リリースタイムラグが大きくなる。

図6(b)は本発明のシャッタタイミングシフト有りのタイミングチャートである。ここで説明の都合上(a),(b)共に露光時間aが同じ場合について説明する。図6(b)ではシフト可能シャッタ秒時時間bが垂直同期信号期間の半分とすると、cは電子シャッタシフト時間となり、dはメカシャッタシフト時間となる。この図から明らかなように、露光時間を同じとすると電子シャッタシフト時間cの分だけ電子シャッタの時間が短くなり、その結果メカシャッタシフト時間dだけリリースタイムラグが短縮されているのが解る。

#### 【0015】

##### 【発明の効果】

以上記載のごとく請求項1の発明によれば、被写体を記録するシャッタ速度が所定のシャッタ秒時以上の場合、電子シャッタ時間をシフトしてそこからメカシャッタのタイミングをスタートするので、リリースタイムラグを短縮すると共に、メカシャッタの性能によりシャッタ秒時の高速側の上限が規制されることを防

止することができる。

また請求項 2 では、シャッタ秒時の上限を垂直同期信号期間の略半分の時間に相当する時間とするので、電子シャッタ時間を短縮してメカシャッタが動作開始する時間を早めることができる。

また請求項 3 では、算出された電荷放電期間からメカシャッタのタイマをスタートさせてメカシャッタを閉じるので、リリースタイムラグを短縮することができる。

また請求項 4 では、請求項 1 と同様の作用効果を奏する。

また請求項 5 では、記憶媒体から読出されたプログラムコード自体が実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

##### 【図 1】

(a) ～ (c) は本発明の撮像装置の一例であるデジタルカメラの外観図である。

##### 【図 2】

本発明の撮像装置の一例であるデジタルカメラのブロック図である。

##### 【図 3】

本発明の記録電子シャッタ期間演算処理を説明するフローチャートである。

##### 【図 4】

本発明の記録電子シャッタ期間設定とメカシャッタ閉じタイミング設定を説明するフローチャートである。

##### 【図 5】

本発明の図 4 のフローチャート時間軸に説明したタイミングチャートである。

##### 【図 6】

(a) には従来のシャッタタイミングシフト無しのタイミングチャート、(b) は本発明のシャッタタイミングシフト有りのタイミングチャートである。

#### 【符号の説明】

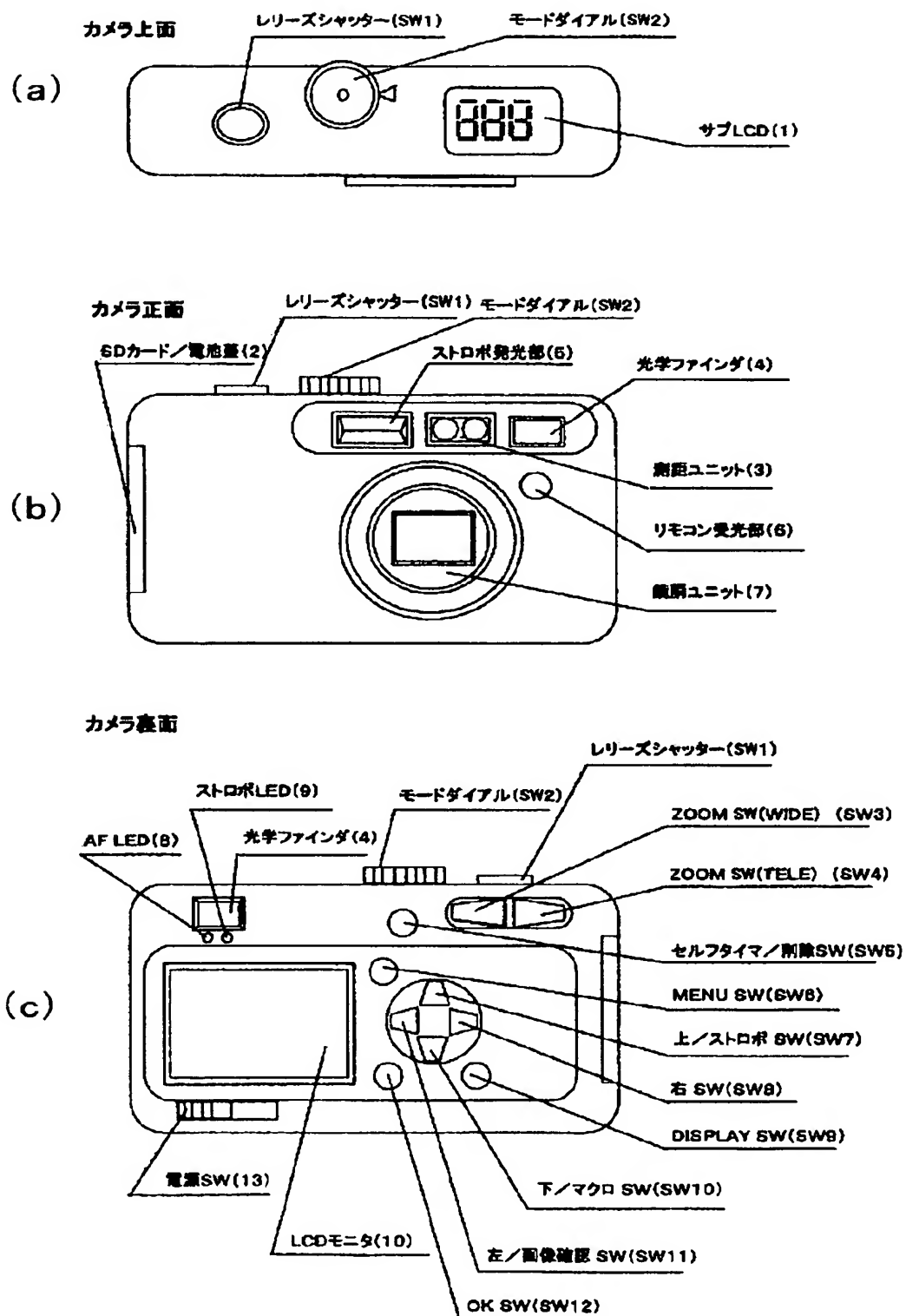
S 2 0 1 シャッタリリース全押判断、S 2 0 2 垂直同期 (V D) 信号のタ



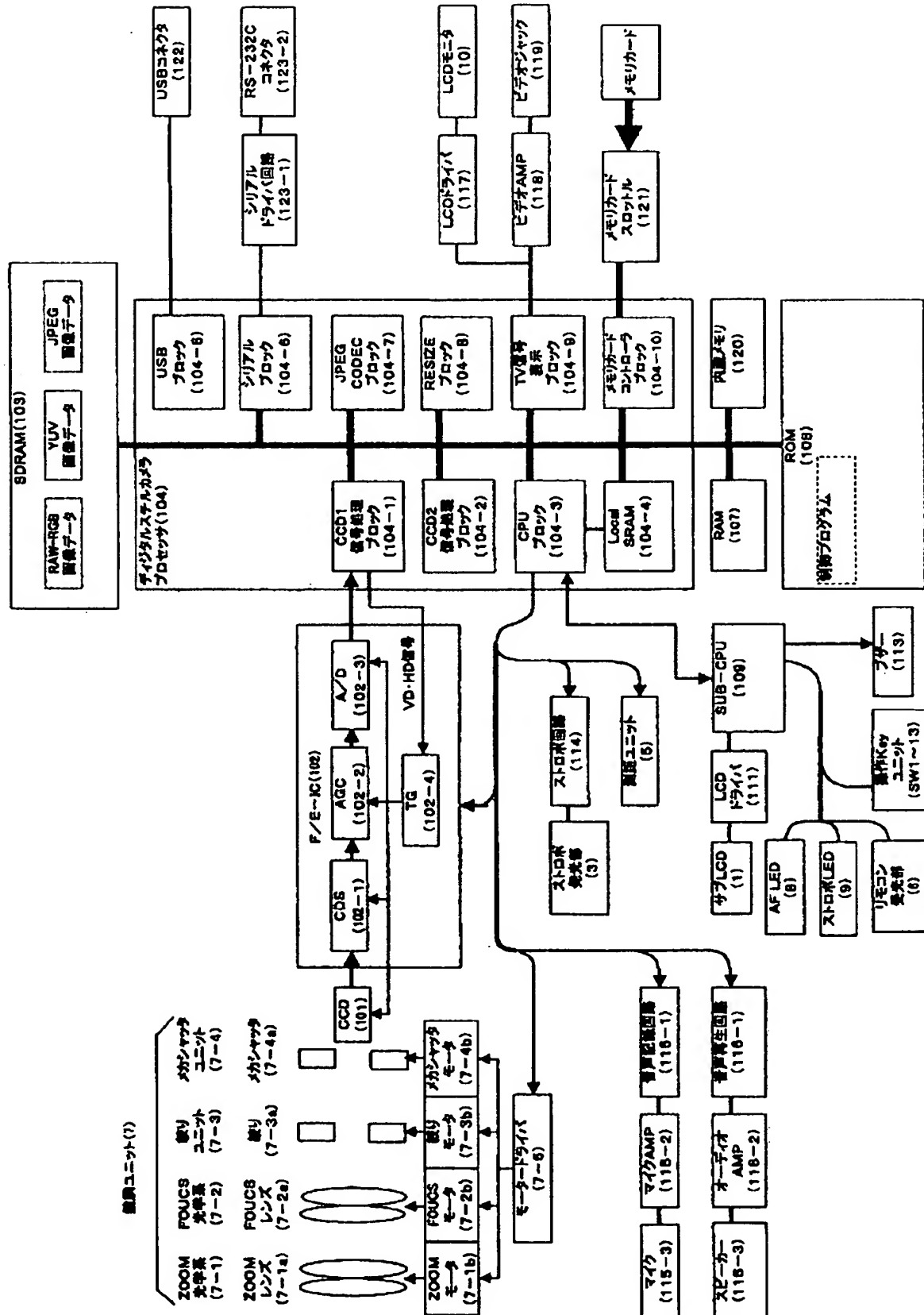
イミング取得、S 2 0 3 垂直同期 (V D) 信号までの時間判定、S 2 0 4 次の垂直同期待ち、S 2 0 5 記録電子シャッタの設定、S 2 0 6 メカシャッタ閉じタイマ設定、S 2 0 7 シャッタ減算有無判定、S 2 0 8 メカシャッタシフト時間の減算、S 2 0 9 垂直同期 (V D) 信号待ち、S 2 1 0 C P U ブロックのタイマ割り込みを開始

【書類名】 図面

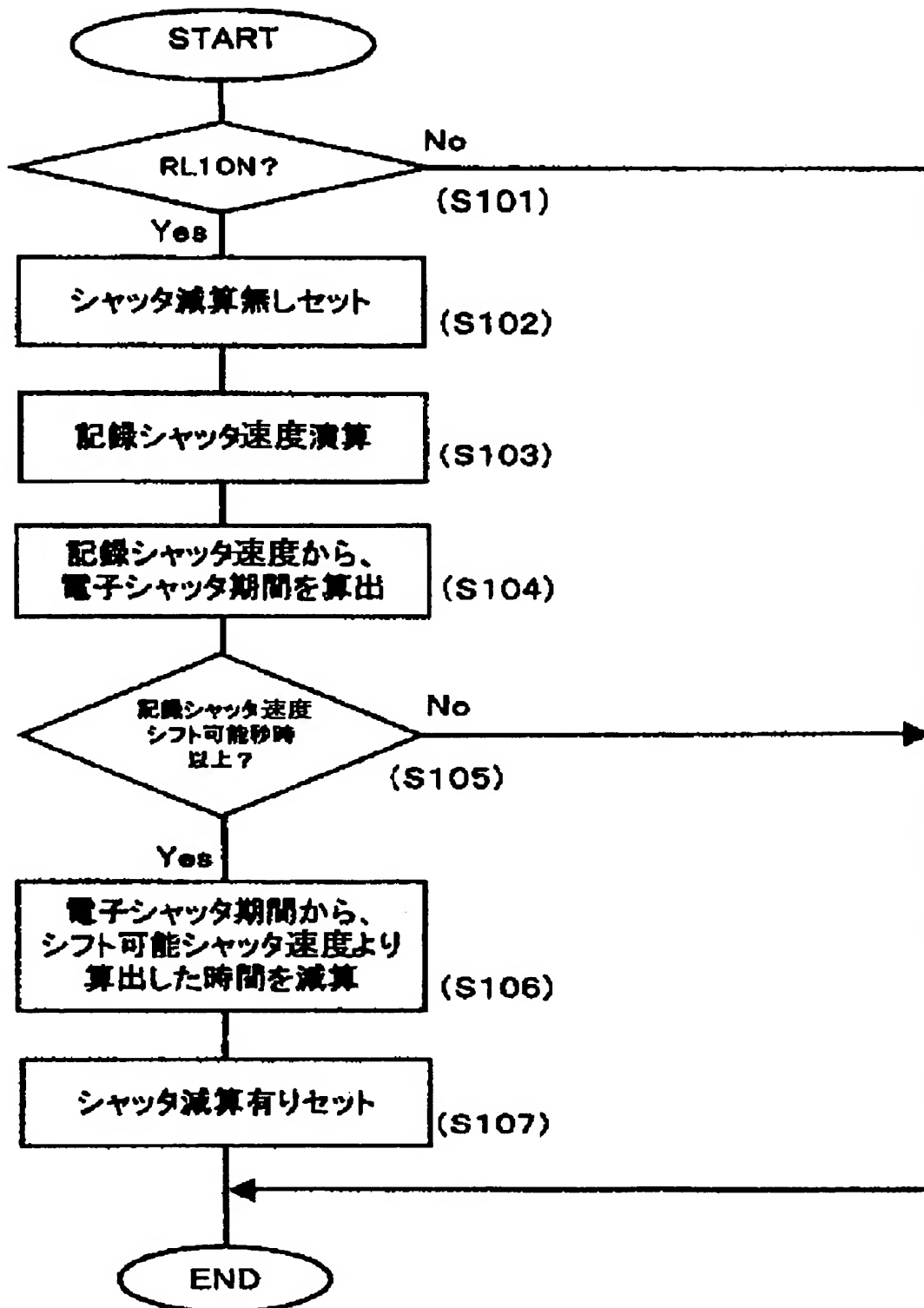
【図 1】



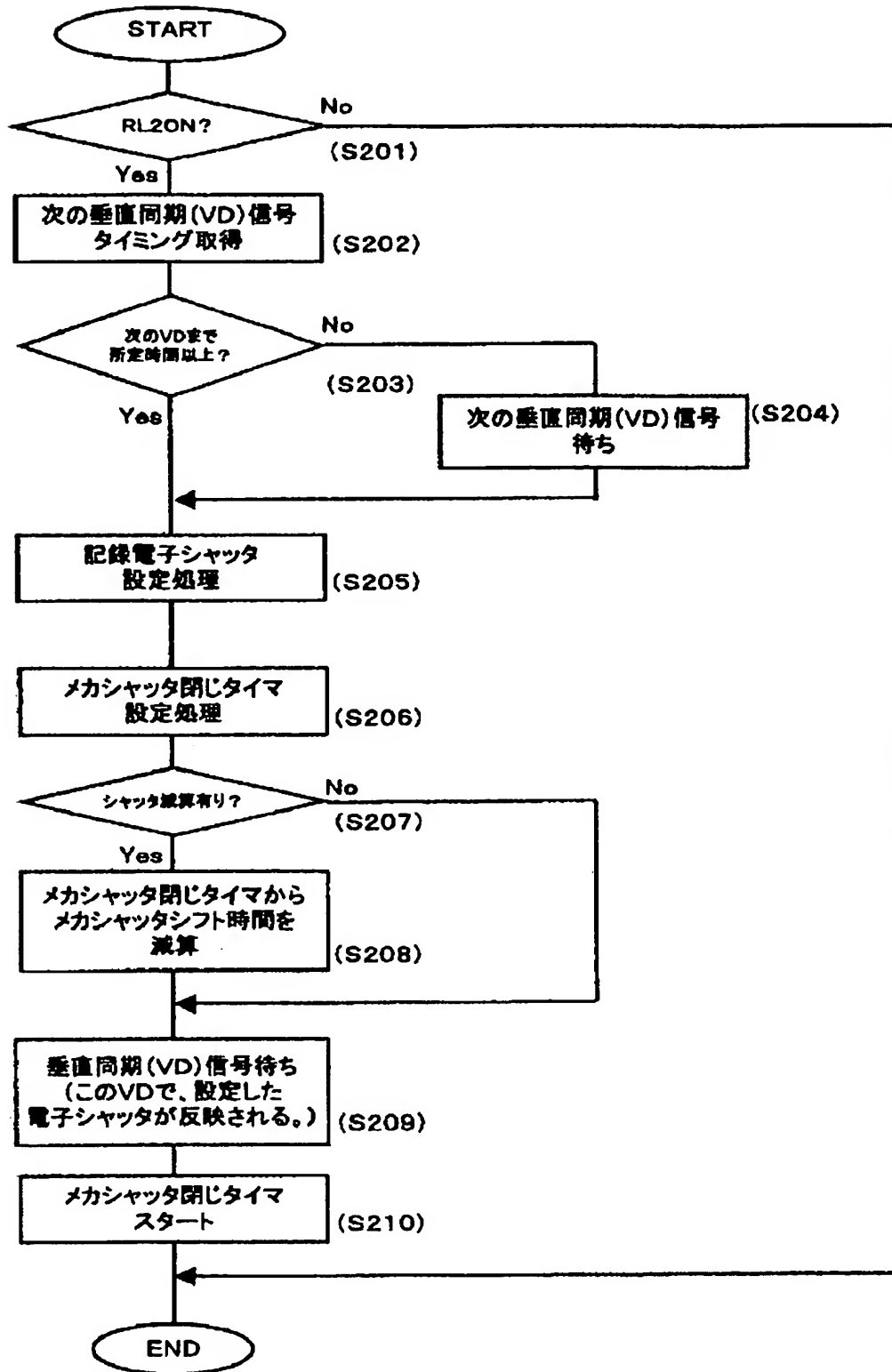
【図 2】



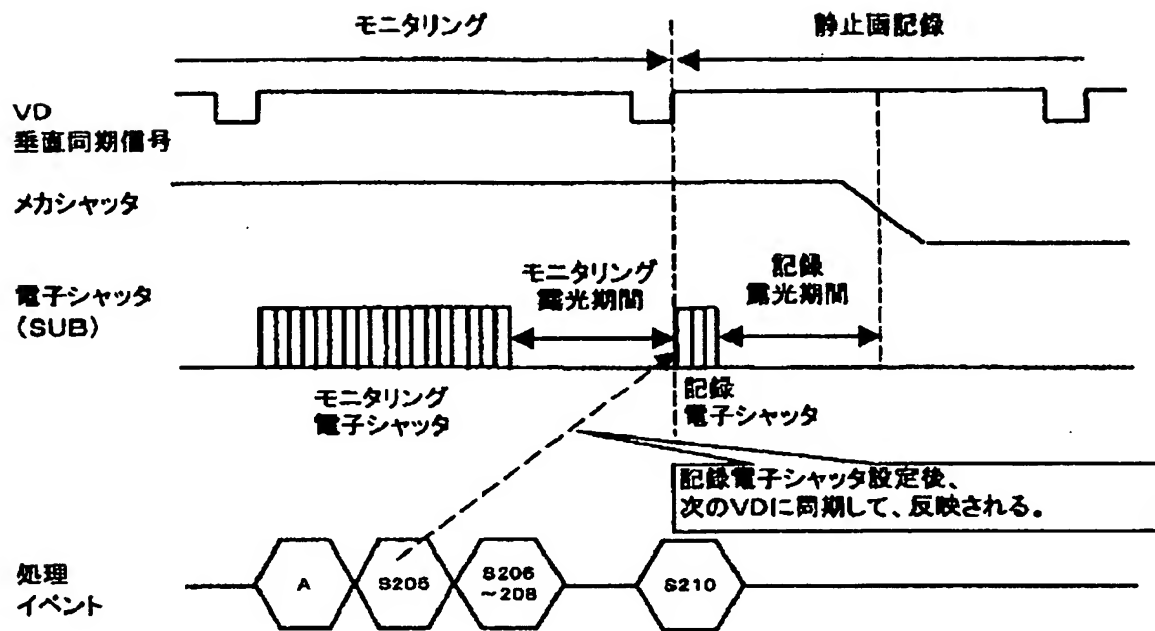
【図 3】



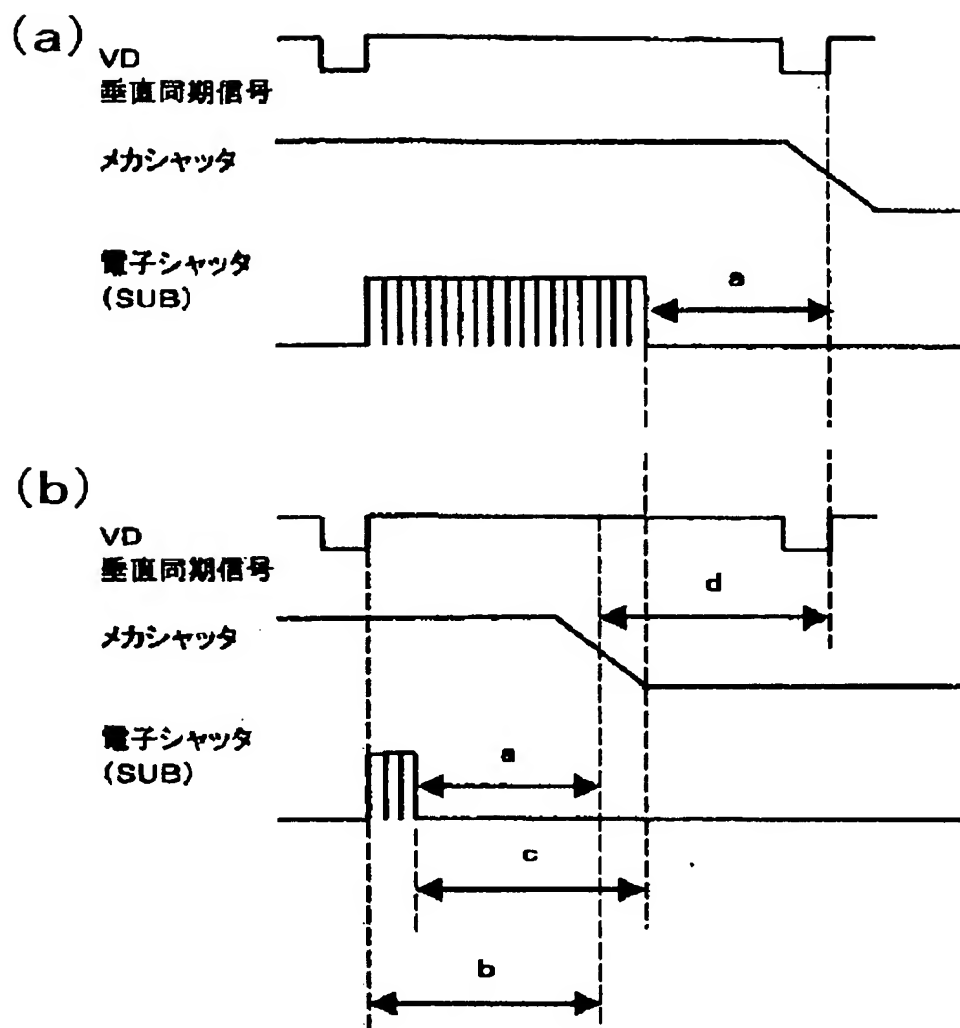
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 シャッタ秒時の高速側の制御の上限を高くして、且つ低コストでリリースタイムラグを短縮した撮像装置を提供する。

【解決手段】 図 6 (b) ではシフト可能シャッタ秒時時間  $b$  が垂直同期信号期間の半分とすると、 $c$  は電子シャッタシフト時間となり、 $d$  はメカシャッタシフト時間となる。この図から明らかなように、露光時間を同じとすると電子シャッタシフト時間  $c$  の分だけ電子シャッタの時間が短くなり、その結果メカシャッタシフト時間  $d$  だけリリースタイムラグが短縮されているのが解る。

【選択図】 図 6



特願 2 0 0 3 - 0 3 1 6 7 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 6 7 4 7 ]

1. 変更年月日	2 0 0 2 年 5 月 1 7 日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号
氏 名	株式会社リコー